

七戸町勢要覧

SHICHINOHE TOWN GUIDE

2024

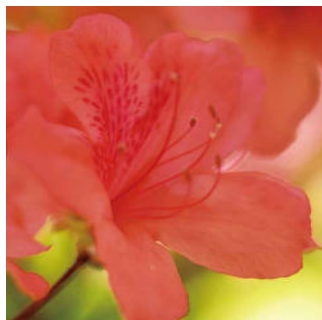


2024

七戸町勢要覧
SHICHINOHE TOWN GUIDE

七戸町の花・木・鳥

(平成17年9月8日制定)



花 | つつじ

町には天王神社や森林公園、つつじロードなどつつじの名所がたくさんあります。



木 | いちょう

樹齢750余年で根回り12メートルの銀杏の大木。青森県の天然記念物に指定されています。



鳥 | キジ

日本の国鳥に選定され、童話や文学、芸術などで親しまれています。

七戸町長 小又 勉より 発刊のごあいさつ



発刊にあたって

人口減少が進み、国際情勢やコロナ禍など、これまで以上に急速な社会変化が起こり得る時代となりました。七戸町では、2024年4月1日に七戸町総合アリーナが供用開始となり、東北新幹線七戸十和田駅周辺の新たなまちづくりがより一層加速することが期待されます。一方で、二ツ森貝塚が世界文化遺産の構成資産となり、七戸町の歴史に対する注目も高まっています。

まちづくりにおいても、新旧両面の価値だけでなく、多様な価値観を認める柔軟さと持続可能な発展が求められています。今後も様々な変化に適応するとともに、町民一体となった協働のまちづくりをしてみたいと考えておりますので、一層のご理解をお願い申し上げます。

七戸町の概要

人口約14,000人、面積約337平方キロメートル、青森県の東部に位置し、国道4号が南北に縦断、国道394号が4号と交差するように東西に横断、青森市と八戸市をつなぐ上北自動車道が整備されたほか、町のほぼ中央に東北新幹線の駅舎が整備され、観光地十和田湖・下北半島をはじめとする県内各所への玄関口として、交通の要衝となっています。

町内には世界文化遺産二ツ森貝塚（縄文時代）、七戸南部氏の居城であった国指定史跡七戸城跡などが残る歴史ある町です。また、鷹山宇一記念美術館など芸術・文化の薫りも高く、さらに、にんにく、長いもなど野菜の一大産地でもあります。

七戸町は自然豊かで歴史と文化のある町です。この冊子で七戸町の魅力を少しでも感じ取っていただければ幸いです。

七戸町民憲章

「今を生きる」私たちは、先人の、たゆまぬ努力によって築かれ、守られてきた

○豊かな自然

○こまやかな人情

を、
町の誇りとして、後世に引き継がなければなりません。

ここに私たちは、七戸町の今をみつめ、あしたを思い、次のことを誓います。

一、自然をいたわり、住みよい環境をつくります。

一、よく働き、明るい家庭をつくります。

一、節度を守り、礼儀正しくします。

一、思いやりと奉仕の心を大事にします。

一、教養を身につけ、心豊かに暮らします。

(平成17年10月25日制定)

七戸町子ども憲章

夢や希望にあふれる七戸町に生きるわたしたちは、共に力を合わせ、新しい歴史を築いていくとともに、自らを高めていくことをちかい、ここに「七戸町子ども憲章」を定めます。

一、わたしたちは、豊かな自然をさらに増やします。

一、わたしたちは、地域の発展のために協力し、みんなの笑顔あふれる町にします。

一、わたしたちは、友情を深めるために、友達のよいところを見つけます。

一、わたしたちは、楽しく交流しながら心と体をきたえます。

一、わたしたちは、未来の自分に後悔しないために、進んで学習します。

(平成17年12月17日制定)



I Love Shichinohe

ここがわたしの住んでいる町。
町を歩き、町を知り、町を愛し、生きていく。

Symbol Mark 七戸町の町章



基本デザインの要素

七戸町と天間林村の合併により誕生した、新七戸町のイメージを象徴したシンボルマークは天間林の「て（ㄣ）」と七戸の「し（ㄣ）」を仲良く組み合わせた「七」の文字をモチーフとし、ふたつがひとつとなって新しい七戸町を創っていくというコンセプトから生まれました。

さらに「七」のカタチを町民にアピールしたのもでもあり、町の活性化と発展を目指す心を凝縮したものです。

シンボルカラーの要素

町章を彩る3色のシンボルカラー。知性・創造・空・水をイメージさせる、「しちのへブルー」。恵みの大地と豊かな自然・共生・生命を連想させる、「しちのへグリーン」。太陽とあたたかさ・豊穣をイメージさせる、「しちのへオレンジ」は、人を構成する頭部にカラーリング。町民の心の雄大さをシンボルカラーに加えたものです。

（平成17年9月8日制定）

Contents

- | | |
|--|--|
| <p>01 — 町長より発刊のごあいさつ</p> <p>02 — 七戸町の花・木・鳥
七戸町民憲章・子ども憲章</p> <p>03 — 七戸町の町章・目次</p> <p>04 — I Love Shichinohe
アイラブしちのへ</p> <p>05 七戸町の伝統文化</p> <p>07 七戸町の景観・観光</p> <p>09 七戸町の祭り・催事</p> <p>11 七戸町の歴史</p> <p>13 世界文化遺産 ニツ森貝塚</p> <p>15 七戸町の新市街地</p> | <p>17 — 七戸町施策概要</p> <p>17 上十三・下北地域への玄関口</p> <p>19 七戸町ゼロカーボン総合戦略</p> <p>20 生活基盤整備</p> <p>21 保健・医療・福祉</p> <p>23 農林畜産業</p> <p>24 商工観光業</p> <p>25 教育</p> <p>26 スポーツレクリエーション</p> <p>27 行政と議会</p> <p>29 七戸ブランド</p> <p>30 — 数字でみる七戸町</p> <p>34 — 七戸町へのアクセス</p> |
|--|--|

1 しちのへ秋まつりで行列を歩く。 2 神明宮大祭において神楽が奉納される。
3 七戸町に先祖代々脈々と受け継がれてきた花松神楽。 4 郷土芸能発表会で披露された袋町神楽による権現舞。 5 室町期の建築様式を今に伝える見町観音堂。
6 見町観音堂に奉納されていた室町時期の羽子板は、現存するものとしては日本最古のものとされている。 7 馬への愛着と庶民の信仰心が結びつき、独特な表現で描かれる南部小絵馬。 8 見町観音堂へと続く参道階段。

見町観音堂
県重宝

応永3年（1396）、七戸南部政光が長慶天皇の菩提を弔うために創建されたと伝えられています。

現在の建物は徳川末期頃の建造とされますが、堂中には応永3年の棟札、永正9年（1512）の観光上人の順札のほか多数の小絵馬も残されており、歴史の古さを物語ります。

国指定重要有形民俗文化財
南部小絵馬・羽子板

古くから良馬の産地として知られた南部地方には、独特の絵柄の「南部小絵馬」が生れました。見町観音堂と小田子不動堂に奉納されていた小絵馬や羽子板などは、当時の庶民信仰のありようを伝える貴重な資料として国重要有形民俗文化財に指定されています。

これらの資料は現在、鷹山宇一記念美術館内の絵馬館で見ることができます。

の後、南部藩5代藩主行信公により寛文4年（1664）に南部家の祈願所とされ、明治26年、現在の地に遷宮されました。七戸の総氏神様として町民の信心を集めています。

神明宮大祭（しちのへ秋まつり）で披露される「親孝行踊り」は南部藩36代藩主利敬公が領民教育のためにつくった、数え唄形式の親孝行をすすめる唄と踊りが中心となったものです。舞子は6歳から12歳までの子女で、とても可愛いらしい踊りです。

親孝行踊りが披露される七戸神明宮は七戸城跡の南東端に位置し、応永3年（1396）に創建・勧請されました。そ

町指定無形民俗文化財
親孝行踊り

七戸町の郷土芸能

七戸町には多くの郷土芸能が伝承されています。

「天間のみよこ」でなじみ深い南部民謡「虎文さま」、南部藩36代藩主利敬公が領土教育のためにつくったとされる七戸神明宮の「親孝行踊り」、香香稲荷神社（二戸）の流れをくむ「向町神代神楽」、切田神楽（十和田）の流れをくむ「和田獅子神楽」や「二ッ森神楽」など発祥と種類は多様です。

後継者不足により活動休止を余儀なくされる団体もありますが、地域住民の努力により「郷土芸能発表会」が毎年開催され、受け継がれてきた華やかな舞が披露されます。

七戸町の 伝統文化

伝統を受け継ぐ心。それを次の世代に渡す心。
脈々とつながる人々の思い。



4



3



1



2



5



8



7



6



1 町の花であるつつじを、道の駅しちのへ前から奥羽牧場内の並木通り沿いに、真っ直ぐ5キロメートルに渡って植栽したつつじロード。
2 七戸町は古くから競走馬の産地で、諏訪牧場ではグリーングラス、タムロチェリーなど多くの名馬を輩出している。牧場で遊ぶ馬たちを国道4号から眺めることができる。
3 東八甲田家族旅行村の大自然で遊んだ後に、木のぬくもりを感じながらゆったりとした時間を過ごせるケビン（宿泊施設）。大人数での宿泊も可能。
4 樹齢 750 余年、見事な幹の銀南木。
5 パラの見頃となる初夏には大勢の観光客で賑わう東八甲田ローズカントリー。市価よりも安くバラを販売している。
6 大自然の中で家族や仲間と思いきりアウトドアを満喫できる東八甲田家族旅行村。
7 オレンジ色のかわいらしい車両で親しまれているレールバス。

深い森、清らかな流れ。
大地の鼓動が心に響く美しい里。

七戸町の 景観・観光

天王神社とつつじまつり

市街地の小高い丘にある天王神社。毎年5月には町の花である約500本のつつじが咲き誇ります。天王つつじまつりでは、夜にライトアップされたつつじが幻想的な美しさを見せ、訪れる多くの方々を魅了します。

つつじロード

道の駅しちのへ前から5キロメートルに渡ってつつじが植栽されているつつじロード。見頃を迎える5月には、道の両側に咲き誇るつつじが観光客をお出迎えし、車でドライブする人や、のんびり散歩する人々の目を楽しませます。

五庵川原の銀南木

樹齢750余年を生きている、樹高26メートル、根回り12メートルの銀南木。昭和31年5月14日、青森県天然記念物に指定されました。この木のそばえる五庵川原は、臨済宗の名僧法身国師のゆかりの地とされ、法身国師が手植えをしたとも伝えられています。

東八甲田ローズカントリー

東八甲田ローズカントリーは、春から秋にかけてバラが鑑賞できます。特に6月下旬から7月上旬にかけて、カラフルな色のバラが咲き乱れ、花が一番きれいな見頃の時期となり、園内が安らぎと癒しの空間となり来場者を迎えます。

東八甲田家族旅行村

東八甲田家族旅行村は、家族で楽しめるアウトドアスポットです。オートキャンプ場やケビン（宿泊施設）、バーベキューハウス、散策路などがあり、自然を満喫することができます。また、高台からは、小川原湖や八甲田連峰の眺めを楽しむことができます。

レールバス

平成14年に廃線となった南部縦貫鉄道。車両は愛くるしく、レールバスの愛称で親しまれていました。廃線後、鉄道ファンの強い熱意で動態保存され、毎年春のゴールデンウィーク時には体験乗車できるイベントが開催されています。



1 掛け声とともに太鼓を打ち鳴らす、勇壮な「けんか太鼓」の競演でボルテージが最高潮に達する「しちのへ秋まつり」。

2 祭りを愛する人たちが世代を超え、華麗な山車を引き連れて町を練り歩く。

3 豪華絢爛な山車が展示されているしちのへ秋まつり山車展示館。

4 大型馬のかん高いいななぎと、馬主の威勢のよい掛け声がこだまする馬力大会。

5 園児によるお遊戯も披露される「しちのへ夏まつり」。

6 夏の夜空に咲く大輪。

7 夏まつりではたくさんの屋台が出店し賑わいをみせる。

青森の県南地方を代表する盆踊り民謡「虎丈さま」に登場する天間のみよこは、明治24年12月10日、天間館集落に生まれた実在の女性「みえ」（愛称みよこ）がモデルといわれています。

一説によると、みよこは15歳のころ、旧陸軍軍馬補充部七戸支部に農婦として働き、その美貌と底抜けの明るさ、気立ての良さで若者たちの憧れの的になったそうです。つらく貧しかった明治末期に、厳しい生活の中でも明るく生き抜いた姿が人々の生きる希望の象徴になり、現在まで語り継がれています。

天間のみよこの姿が見れば
つらい仕事もこわくない

天間のみよこ

七戸町の夏を盛り上げる、8月の大イベント。七戸町中央公園において開催され、郷土芸能やキャラクターショー、有名ゲストによる歌謡ショーなど多彩な催しが行われます。

しちのへ夏まつり

近年、農業の急速な機械化によって農耕馬が減少したことに伴い、かつては盛んに行われていた馬力大会も衰退していきましたが、「馬産地七戸で再び馬力大会を」を合い言葉に、周辺町村の有志たちの働きかけによって「北海道・東北馬力七戸場所」が開催され、現在では「東北馬力七戸大会」と名を変え、開催されています。

馬のかん高いいななぎと、馬主の威勢のよい掛け声がこだまする大迫力のレースは、七戸町の代表的なイベントとして定着しています。

人が舞い、人が歌い、人が祈る。
やがて祝福の神が降りてくる。

しちのへ秋まつり

秋を彩るしちのへ秋まつり（神明宮大祭）は毎年9月に行われます。昔話、歌舞伎、伝説などから題材を選んだ、各町内会自主制作による華麗な山車が、笛や太鼓のお囃子と共に、五穀豊穡を願いながら市街を勇壮に練り歩く、町の代表的な行事です。「けんか太鼓」と「休み太鼓」による激しさと優雅さの対比が観客を魅了します。前夜祭や、夜間山車運行、中日の仮装大会と十分に楽しむことができます。

七戸町の山車

七戸町の山車は「絵馬型風流山車」と呼ばれ、南部小絵馬をモチーフにした大型の絵馬が、後部に配置されている特徴ある形状です。

道の駅しちのへ内にある「しちのへ秋まつり山車展示館」には、山車が常設展示されています。

馬力大会

古来七戸は、馬産地として有名でしたが、明治2年、七戸藩主南部信方の父信民が七戸の産業振興のため、養蚕・馬鈴薯の栽培を奨励する一方、畜産の振興にも力を注ぎました。このため、明治期に浜中牧場・盛田牧場・工藤牧場などの牧場が相次いで設立されています。



1 七戸城跡の全体写真。 2 三～四世紀の猪ノ鼻(1)遺跡の土器と管玉。 3 五世紀中頃の森ヶ沢遺跡出土の土師器と須恵器。 4 天間館一里塚とケヤキの古木。 5 蒼前平一里塚。 6 国指定登録有形文化財の旧七戸郵便局。昭和3年に建設された特定郵便局舎。昭和初期のモダンなたたずまいを残している。 7 約140年前に建立された瑞龍寺山門。入母屋造りで重厚な風格があり、町指定文化財。 8 馬の神社として知られ、上北地方馬産家の信仰を集める花松神社。

この土地を切り拓いた人々の証
変わらないものがある。

七戸町の歴史

古墳時代の七戸

三世紀後半から六世紀末頃までを古墳時代と呼びます。この頃、北日本には古墳文化とは異なる文化があります。それが「縄文文化」です。

七戸町にはその頃を代表する遺跡が次々と発掘調査で明らかになってきています。

猪ノ鼻(1)遺跡は、古墳時代前期(三世紀から四世紀)の「墓地」が発見され、お墓は地面を楕円形に掘り下げた「土抗墓」と呼ばれる墓穴です。

お墓の中からは、縄文土器や古式土師器、鉄製品、玉(ガラス製)などが出土しています。玉は碧玉製管玉、緑色凝灰岩製管玉、コハク製丸玉が出土しています。

猪ノ鼻(1)遺跡の西方約1.5キロメートルの地点には、五世紀中頃の墓地群も確認されています。これらことから、北日本の空白の時代を埋める重要な遺跡が坪川流域に点在しています。

国史跡 七戸城跡

国史跡七戸城跡は中世七戸南部氏の居城で、根城南部8代城主の南部政光が移り住んだ(1392)後から本格的に発展したものと考えられ、南部氏統治エリアにおける北方防衛の最前線と見なされています。

城の縄張りとは天然の急岸と空堀により区画された10の曲輪から形成されており、平成3年から平成15年にかけて行われた北館曲輪の発掘調査において、御主殿・常御殿・奥御殿・宝物殿などの建物跡が検出されたことから、この地点が中世における七戸城の中枢であったと推測されます。

九戸政実の乱(1591)で七戸家国が九戸方に加担したことから、豊臣の奥州仕置軍上杉景勝に攻め入れ七戸城は落城しました。

七戸城跡の本城と呼ばれる場所は、現在柏葉公園として開放され、町民の憩いの場として利用されています。

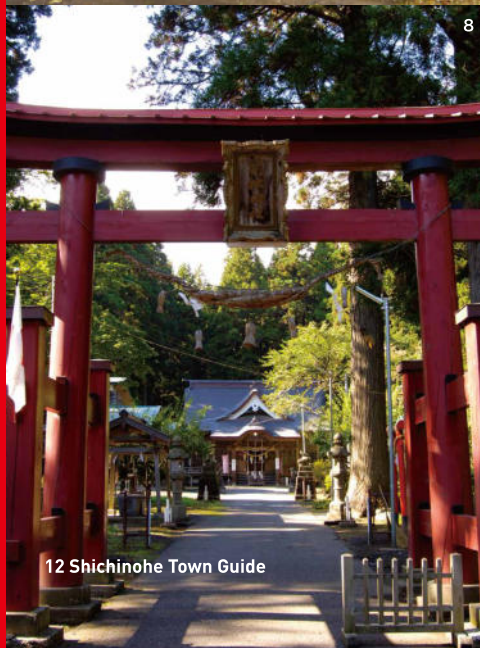
県史跡 一里塚(天間館・蒼前平)

五街道のひとつ奥州街道を北へ進むと、中野川を越えたところで分岐します。

野辺地に至るまでの本道は右手側ですが、左手側はその近道として多く利用され、現在は国道4号として整備されています。

本道側には県史跡の天間館の一里塚と蒼前平の一里塚が残されています。

いずれも道路をはさんで二基の塚が現存し、天間館には古木のケヤキが、蒼前平には道路跡も原型をとどめており、かつてのひそやかな風景が味わえます。



世界文化遺産「北海道・北東北の縄文遺跡群」
構成資産

地球の温暖化により長い氷河期が終わりを告げ、両極の水が溶けだすと、海水面が上昇したことにより、海岸線は現在より内側へと浸入してきました。約10000年前にピークを迎えるこの現象を「縄文海進」と呼びます。

この時期、青森県の太平洋岸においては、海岸線が小川原湖を含んでさらに内側まで入り込み、「古小川原湾」を形成していました。この古湾の西側に位置する段丘上に、人々はムラをつくり1500年もの長い間生活しました。それがニッ森貝塚です。

縄文時代前期中頃(約5500年前)以降、海と山の豊富な食資源の恩恵を受け、居住区、貝塚、墓域などをつくりながらムラは発展していき、そこでは土器や石器、骨角器などの生活用具が大量に生産され、また祭祀や他地域との交流が行われるなど、豊かな生活が営まれていました。

気温の低下とともに海岸線が再び後退(縄文海退)していくと、内湾は次第に現在の小川原湖の姿をかたどっていきます。これにより、はじめはホタテやマガキなど鹹水系の貝類を採っていた人々の食生活は、次第に汽水系のヤマトシジミ主体の生活へと変化していきました。そして、縄文時代中期後葉(約4000年前)にムラは急速に収束していきます。

青森県最大の貝塚遺跡であることに加え、気候変動による自然環境の変化、それに対し人々が暮らしを順応させていく様子が分かることがニッ森貝塚の大きな特徴です。

その重要性が認められたことにより、令和3年7月27日「北海道・北東北の縄文遺跡群」の構成資産のひとつとしてユネスコ世界文化遺産に登録されました。

ニッ森貝塚史跡公園

ニッ森貝塚全体の範囲は約47万平方メートルと極めて広く、うち約11万平方メートルが国史跡として指定されています。東地区と呼ばれる場所は史跡公園として整備され、復元住居などが立てられています。のどかな芝生のなかを散策しながら、当時のムラの雰囲気を楽しめます。

ニッ森貝塚館

ニッ森貝塚史跡公園に程近い場所に、廃校となった小学校を改装したガイダンス施設「ニッ森貝塚館」があります。発掘調査で出土した遺物や剥ぎ取った貝層断面などを見ることが出来ます。

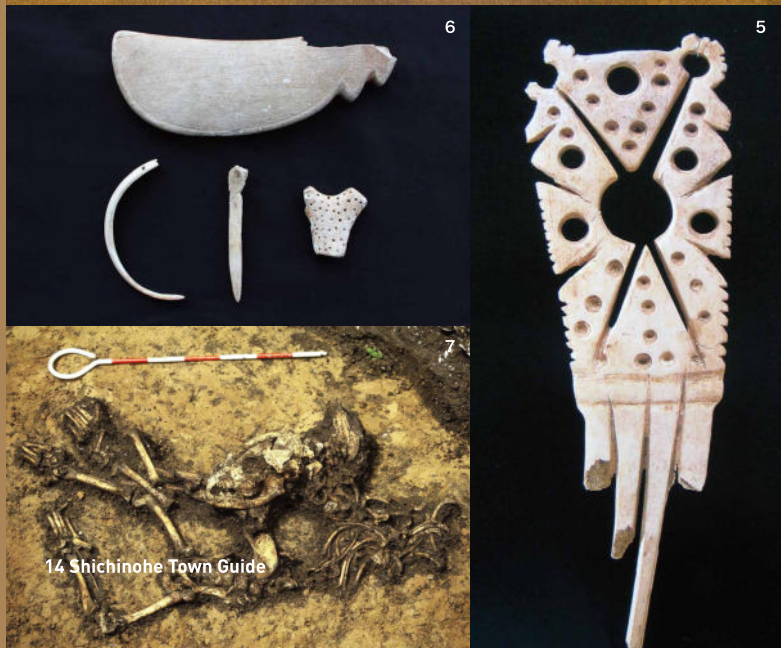
県重宝の骨角器

ニッ森貝塚からはたくさんの骨角器が出土していますが、ニッ森貝塚の特徴をよく表す5点が県重宝に指定されています。鹿の角を加工してつくられた飾り櫛は、手の込んだ加工と奇想天外なデザインで多くの見学者を魅了します。

埋葬されたイヌの骨

発掘調査で発見された幼犬は、人の墓と同じ方法で埋葬されていました。縄文時代から、ヒトとイヌとの関係が緊密であったことを示す貴重な資料です。

- 1 ニッ森貝塚から小川原湖を望む。 2-3 ニッ森貝塚館 4 ニッ森貝塚史跡公園
5 鹿角製櫛(県重宝) 青森県埋蔵文化財調査センター蔵
6 (上) 鯨骨製青竜刀形骨器 (左下) 猪牙製垂飾品 (下中央) 鹿角製尖頭器 (右下) 鹿角製叉状品 ※すべて県重宝
7 幼犬の骨出土の状況



主体的・継続的に スポーツレクリエーションを楽しむ

七戸町の新たなスポーツ拠点

総合アリーナ

エリアの中核を担う施設として、令和6年にオープンしました。1階にはアリーナと多目的ホールが配置されバスケットボール、バレーボール、バドミントンなど多くの屋内競技の実施が可能となっています。また、研修室は、100人規模の会議や研修会のほか、文化活動やサークル活動の場としての利用も可能となっています。

2階には、700人の常設観覧席のほか、ランニングマシンやスミスマシンなど、充実した機器を設置したトレーニング室や、1周183メートルのランニングコースを配置するなど、1年を通じてスポーツに親しむ環境が整えられています。

また、各種スポーツ大会や様々なイベントなどで、多くの方々の交流の場となる機能も有しています。

国民スポーツ大会

令和8年に青森県で開催される第80回国民スポーツ大会では、総合アリーナが「剣道競技会」の会場となります。アリーナに試合場2面を配置し、少年と成年それぞれの男女団体戦が行われます。

剣道競技会の運営を担う実行委員会は、大会の実施に向けて競技運営計画のほか、選手・役員の宿泊及び輸送交通の計画の策定や、大会の機運の醸成を図る活動を展開していくこととしています。

まちづくりの新たな中心エリア

七戸町の 新市街地

七戸十和田駅周辺地区

七戸町都市計画マスタープランにおいて、既成市街地の七戸地区、天間林地区に加え、土地区画整理事業により整備された七戸十和田駅周辺地区を新市街地と位置づけています。当地区では観光交流機能の集積、商業や住宅などの整備の推奨、行政サービスなどの都市機能の集積といった、計画的な市街地整備を推進しています。

荒熊内地区開発計画

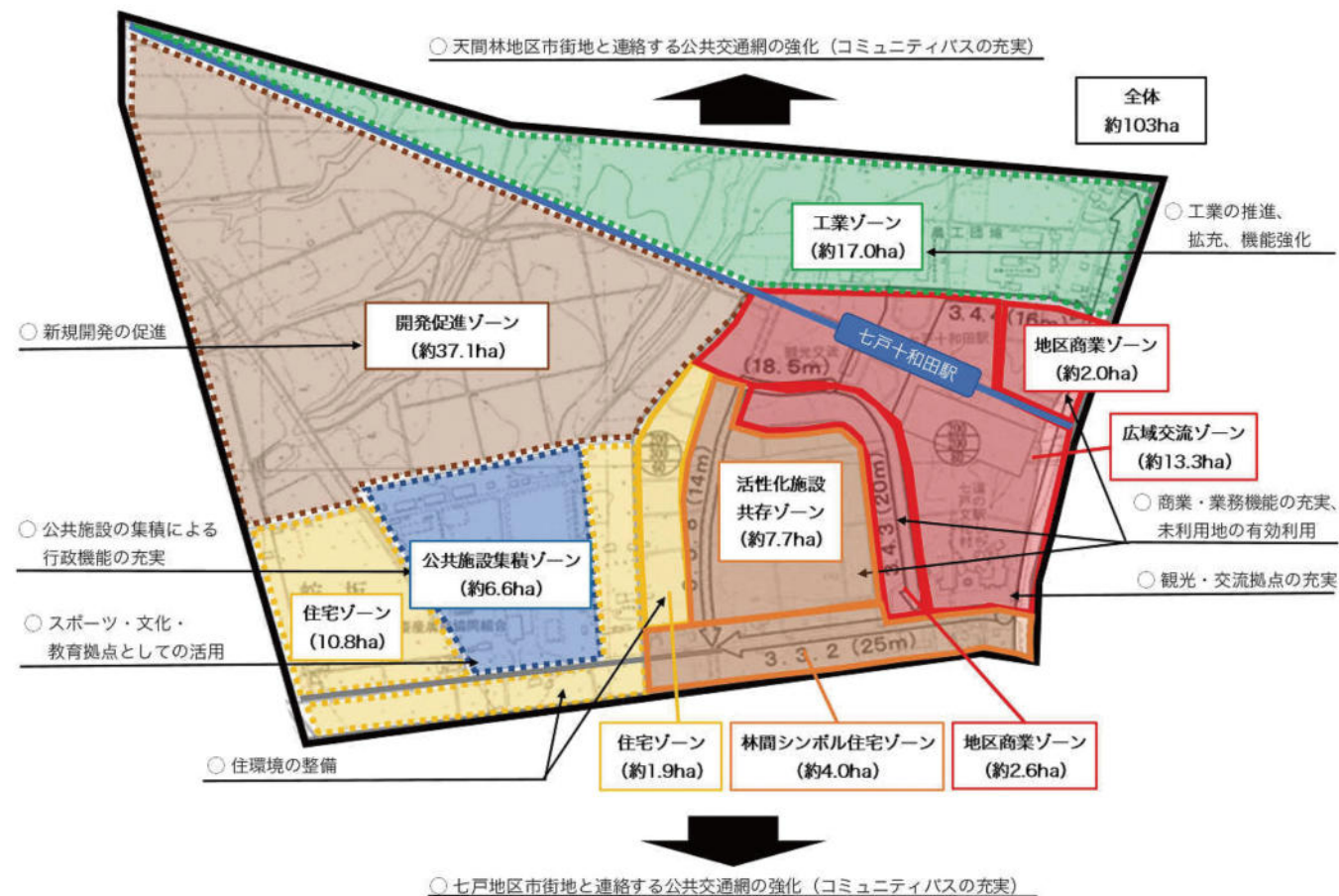
七戸十和田駅周辺地区を含む約103ヘクタールの区域を対象とし、住民が参加して同区域の将来像を思い描き、20年先（2039年頃）を目標に見据えた計画を策定しました。

そのうちの約6.6ヘクタールの用地を第1次市街地整備事業の対象区域に定め、ワークシヨップやアンケート結果を踏まえ、整備方針や優先して整備する公共施設などを計画に盛り込みました。

令和6年4月1日に供用開始した七戸町総合アリーナは、同計画内で検討された施設のひとつです。

今後七戸十和田駅周辺において、各施設の整備だけでなく、公共交通や交流人口の拡大など、「七戸のHUB（ハブ）エリア」としてのまちづくりを推進していきます。

荒熊内地区開発方針図

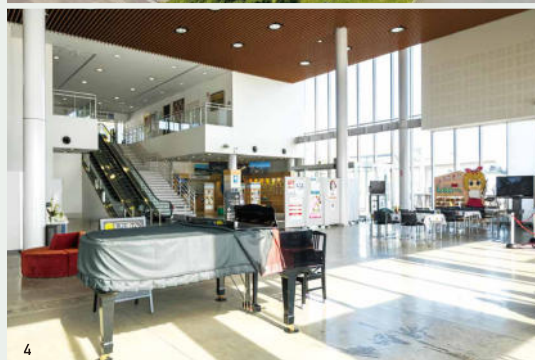


出典：荒熊内地区開発計画



- 1-2 七戸町総合アリーナオープニングイベントで北京五輪に出場した元バドミントン選手小椋久美子さんによるバドミントン教室を開催。
- 3 七戸町総合アリーナ外観。
- 4 七戸町総合アリーナ落成記念式典で剣道競技を披露。





上十三・下北地域への玄関口

2010年12月、七戸町に新幹線がやってきました。
新幹線開業を新たなスタート地点と位置づけ、本駅を起点にした総合的な戦略を展開し、
産業・経済・文化のさらなる発展を目指します。

- 1) 東北新幹線七戸十和田駅前全景。
- 2) 駅開業とともに開発がすすむ七戸十和田駅周辺地区。道の駅しちのへを中心とした上十三・下北地域の新たな玄関口・商業観光拠点として、大型スーパー開業との相乗効果により着実に集客力を強めている。
- 3) 七戸町の特産品である長いもやにんにく、新鮮な野菜などが豊富なしちのへ産直七彩館。
- 4) 七戸十和田駅に隣接する「七戸町観光交流センター」は、上十三・下北地域の観光情報コーナーやカフェを備えている。また多目的ホールは様々な催事に利用できるほか、「しちのへ駅ピアノ」が置かれ、訪れた方が自由に演奏し楽しむことができる。
- 5) 鷹山宇一ランプコレクションが常設されているランプ館。天井には池内康のステンドグラスが装飾されており、透過する北国の軟らかな光が部屋の雰囲気さをさらに高めている。

「現代日本の稀有な幻想画家」と称された七戸出身の洋画家、故・鷹山宇一画伯の透明感溢れる作品とともに、画伯のコレクションである十九世紀西洋の華麗なオイルランプを鑑賞いただけます。また、国指定重要有形民俗文化財『南部小絵馬』をはじめ、芸術大国スペインの陶器等を保管、随時ご紹介しています。

鷹山宇一記念美術館

「しちのへ産直七彩館」には、七戸町の特産品である長いもやにんにく、新鮮な野菜などが豊富に揃っているほか、漬物やトマトジュースなど加工食品のコーナーがあり、連日多くの利用客で賑わっています。

しちのへ産直七彩館

これらの地域活性化の核となる取組が認められ、国土交通省から「重点道の駅」「防災道の駅」に選定されました。

また、24時間利用可能なトイレに加え、周辺の情報発信や防災拠点としての役割を併せ持つ施設「道路・観光情報館」も整備され、道の駅利用者のみならず地域住民の安全に寄与する機能を向上させました。

国道4号沿いに位置する「道の駅しちのへ」は、おみやげ品などを取り揃える物産館や町の特産品の産地直売施設、七戸町が生んだ画家の美術館など、休憩、買い物、食事、美術鑑賞といった様々な要望に応えられる施設を備えており、連日多くの利用者が訪れます。

道の駅しちのへ

駅南口の「七戸町観光交流センター」では、七戸町を訪れる多くの方々の利便性を高めるため、観光案内所を設置し、上十三・下北地域全ての市町村に関するパンフレットを取り揃えるなど、青森観光のアクセス拠点としての役割を果たしています。

七戸町観光交流センター

また、駅舎の南北には駐車場が配置され、町内外の多くの方々に利用されています。
八甲田連峰や下北半島、十和田湖といった青森県を代表する観光地への玄関口として、誘客促進や認知拡大が図られる新幹線駅です。バスやタクシー、マイカーやレンタカーなど、様々な交通アクセスに対応できるよう、駅前ターミナルが整備されています。

東北新幹線七戸十和田駅

生活基盤整備

- 1) 3 R 活動が促進され、七戸町では中学生によるリサイクル活動が行われている。
- 2) 東北新幹線七戸十和田駅開業に伴う交通ネットワークの拡充を図り、良好な居住環境整備を進めている。

人と暮らしにやさしい空間を創り、
快適で彩りあふれる
安全なまちづくりを行います。



- 1) 中学生による太陽光発電システムの見学が行われた。
- 2) 道の駅しちのへに設置されている太陽光発電システム。
- 3) 環境問題や自然エネルギーについて学ぶソーラースクールの実施。
- 4) 自然エネルギーについて学ぶミニ風車づくり。

地球温暖化や環境問題へ
真剣に取り組みます。

七戸町ゼロカーボン 総合戦略

地球温暖化対策や環境問題に積極的に取り組むため、町では令和3年7月に「ゼロカーボンシティ」を宣言し、地域の持続可能な未来を築くことを目的に「七戸町ゼロカーボン総合戦略」を策定しました。総合戦略に基づく施策を推進し、町民はもとより関係機関や地元企業の協力によりカーボンニュートラル実現に向けて取り組んでいます。

主な内容としては、「エネルギー導入施策」と「まちづくり・施設導入等の施策」があり、エネルギー導入施策では、風力発電、太陽光発電、小水力発電、バイオマス発電を推進します。
また、まちづくり・施設導入等の施策では、廃棄物リサイクルを促進普及、EVを活用した普及啓発活動、公共施設の脱炭素化などを推進します。

エネルギー導入施策

- 風力発電…地域に調和した風力発電事業
- 太陽光発電…遊休地、卒FIT電源を活用した太陽光発電事業の検討
- 小水力発電…利水ダム等の町内未利用小水力を活用したバイオガスの導入推進
- バイオマス発電…畜産バイオガスプラント事業、森林バイオマスの活用

まちづくり・施設導入等の施策

- 省 資 源…資源循環の推進
- まちづくり…荒熊内地区ゼロカーボン街区の構築検討
- 施 設…公共施設の脱炭素化、町内住宅のZEH化支援、EVを活用した普及啓発活動
- 交 通…グリーンツーリズム拠点整備、公共交通グリーン化・利便性向上

コミュニティバス

町の活性化と福祉の増進を目的とした、誰でも利用することができるコミュニティバス。町内各地域と病院、役所、商業施設などの町内の主要施設をつないでいます。

防災・交通安全・防犯

地域防災計画の策定や防災通信体制の整備など総合防災体制の確立を図るとともに、交通インフラの整備にあわせ広域的な交通安全対策を講じています。

また、こどもたちの安全のため、家庭・学校・地域などが連携して防犯・交通安全活動を推進する環境の整備に努めています。

生活排水処理

都市基盤整備を効率的に推進するため、公共下水道の整備を効率的に推進します。
また、地域住民の快適な生活環境を確保し、公衆衛生の向上と公共用水域の水質の保全を図るため、公共下水道事業及び農業集落排水事業など、生活排水処理対策を推進しています。

さらに、生活排水を適切に処理し、自然環境を保護することの大切さについての啓発活動を推進しています。

保健・医療・福祉

住民の暮らしと健康を守る、
医療環境・福祉の提供。
心豊かに安心して暮らせる
まちづくりを進めます。

心豊かに安心して
暮らせるまちづくり

心豊かに安心して暮らせるまちづくりを
推進するため、地域で支え合う、保健・医
療と福祉の実現を目指し、介護サービスの
質の向上、介護予防事業の推進、保育サ
ービスの充実、少子化対策などに積極的に取
り組んでいます。

保健・医療

町民の健康を守る「予防」の観点から、
保健センター・地域包括支援センターでは
関係機関と連携を強化し、緊密な情報交換
体制を整備しています。また、公立七戸病
院の機能拡充など、地域に密着した保健医
療システムの確立と専門スタッフの確保に
努めています。

働き盛り年代の死亡率減少を目指した健
診施策のほか、町の健康課題である糖尿病

対策や自殺対策に力をいれた事業を展開し
ています。さらに、食生活改善推進員は食
の健康、保健協力員は健康づくり全般につ
いて普及啓発活動を行っています。

障がい

障がいのある人が地域で自立しながら生
きがいを持って生活していくために、障が
いに対する理解を深めるための取組や体制
づくり、社会活動へ参加するための機会の
創出に努めています。

地域包括支援センター

介護予防と高齢者が安心して暮らせる地
域づくりを推進しています。

- 1 介護に関する相談や心配ごと、健康や福
祉、医療などの相談
- 2 認知症高齢者の権利擁護や高齢者虐待の
防止・早期発見及び成年後見制度の紹介
や利用支援
- 3 要支援・要介護になる可能性の高い高齢
者を対象とした介護予防事業の提供。要
支援1・2と認定された方の介護予防サ
ービスが適切に提供されるよう調整
- 4 高齢者が適切なサービスを利用できるよ
うに、ケアマネジャーへの助言や指導及
び支援、また関係機関との連携

子育て世代包括支援センター

妊娠期から子育て期にわたるまで切れ目
のない支援をするため、各種相談、支援計
画の作成、産後ケアや乳幼児健診などの母
子保健サービスを行っています。

子ども家庭総合支援拠点

子育て世代包括支援センターと連携し、
課題を抱える子どもや家庭への相談体制を
整備し、関係機関と連携しながら、児童虐
待の発生予防・早期発見、対応に努めてい
ます。

令和7年度に子育て世代包括支援セン
ターと子ども家庭総合支援拠点の機能を兼
ね備えた「子ども家庭センター」の設置に
向けて準備しています。

子育て支援

妊産婦健診、新生児聴覚検査の助成や子
ども医療費の無償化、小・中・高校入学の
節目に合わせ支援金の支給をしています。
小学校区ごとに児童センターを整備し、子
育て環境の充実に努めています。



- 1) 乳幼児健診で母子をサポート。
- 2) お手玉や運動などを楽しむほのぼの交流会。地域の人と交流する
集いの場。
- 3) 地域の集会所で実施された健康教室。
- 4) ウォーキング教室。七戸町中央公園を元気に歩く。
- 5) 体力づくりや健康維持のために開催される生活習慣病予防教室。
- 6) 障がい者スポーツ大会でのフライングディスクアキュラシー。
- 7) 食の大切さを学んでもらう食育教室。
- 8) 小さいころから薄味になれるための「だし活」が行われた。



商工観光業

- 1) 2) 道の駅しちのへ道路・観光情報館。トイレ、授乳室、道路・観光情報提供室が24時間利用可能となっている。
- 3) しちのへ秋まつりでは、七戸町商店街に多くの観光客が訪れ、町民とともに賑わいをみせる。

東北新幹線七戸十和田駅開業を機会に、優れた自然的資源、歴史・文化的資源を活用した「商工観光業」の推進に努めています。

新幹線駅を拠点とした 広域観光ネットワーク

七戸町の優れた自然的資源、歴史・文化的資源などを観光資源として有効に活用していくため、観光振興計画を策定し、新幹

地域に適合する新産業の創造へ

七戸町では、新幹線七戸十和田駅開業を機会に、駅周辺を観光・交流拠点として空間の整備を進めています。
また、自動車専用国道となる上北横断道路及び下北半島縦貫道路などの整備により、地理的条件からも県土整備の要となったことから、地域に適合する新産業の創造拠点としての利点を活かして、企業誘致などの推進に努めています。

七戸町の工業

景気に左右されない就労の場を確保するための企業立地が促進されるよう、新幹線駅開業による交通ネットワークの整備を絡めた、企業誘致などによる新産業の創出と、企業立地基盤の整備に取り組んでいます。



魅力ある農林畜産業の構築により、豊かな自然が育む農林畜産物を七戸町から全国に発信し続けていきます。

魅力ある農林畜産業の構築

七戸町は、河川を取り囲む平野部に農業が展開しており、水稻作付けが主体で、水田を活用した高収益作物の生産とあわせ、多種多様な作物が作付けされており、県内有数の食料生産地であります。

七戸町の農業

経営所得安定対策では、水田収益力強化ビジョンに基づく複合農業への転換として、新作物の導入や栽培技術の向上、コスト低減を図る畜産業との連携など、農業者の創意工夫を支援し、独創的な産業の創出を推進しています。

七戸町では現在、農業従事者の減少と高齢化が進んでいるため、スマート農業・農

七戸町の畜産業

七戸町は県内有数の肉用牛の生産地であり、町の農産物の産出額の約半分を占める重要な産業であります。後継者不足により経営体は減少傾向にありますが、一戸あたりの飼養頭数は増加しており、規模拡大が進んでいます。

また、規模拡大に伴い環境問題への取組も重要となっています。今後は先端技術の導入により、作業の省力化や効率化、品質向上を図るとともに、循環型の社会を目指し、持続可能な産地の形成を推進していきます。

七戸町の林業

七戸町の森林は人工林が約64%を占め、その人工林は本格的な利用時期を迎え、適切な森林管理が求められています。持続的な森林経営のためには資源の循環利用を図っていく必要があります。

また、効率的に森林の有する多面的な機能が発揮できるよう、特性にあった多様な森林づくりを進めるため、林道の整備や林業事業者のさらなる育成を図り地域林業の定着・発展に努めています。

魅力ある市街地づくり

七戸町の市街地は、城下町の雰囲気が残る商店街周辺地区に加え、開発が進む七戸十和田駅前地区など、新たな市街地形成も進んでいます。

歴史と自然ある風景との共存を図りながら、人口減少社会や多様化するライフスタイルに合わせた市街地づくりに取り組むとともに、住む人も訪れる人も魅力を感じられる町を目指しています。

商工観光業の推進へ

七戸町では、優れた自然的資源、歴史・文化的資源を有効に活用した、商工観光業の推進に努めることにより、人々がふれあい、語らい、そして賑わう、花と緑あふれる街並み空間の形成に努めています。



農林畜産業

- 1) 稲刈り。晴天のもと黄金色に実った稲穂を収穫。
- 2) 10月頃に植えるのは七戸町の名産品であるにんにく。
- 3) 七戸町営石倉山放牧場。のんびりした風が流れる、広大で豊かな大地に育まれた黒毛和牛が元気に放牧されている。



スポーツ レクリエーション

- 1) こどもから大人まで各年代ごとに熱い戦いが繰り広げられる「四市三郡七戸桜花柔道大会」。
- 2) 七戸町総合運動公園テニスコートで行われるソフトテニス大会。人工芝のコートでナイター設備も備えている。
- 3) 七戸町総合運動公園において夏に開催される「七戸町長杯サッカーフェスティバル」。地元チームTRIAS七戸SCも奮闘。

七戸町では、町民が健やかで
活気に満ちた生活と、
生涯スポーツ社会の環境づくりを
推奨しています。



七戸町では、スポーツレクリエーション施設の整備を着実に進めてきました。恵まれたスポーツ環境の下、こどもから高齢者までスポーツに親しみ、各種大会での活躍が続いています。

また、健康への意識や自由時間の増大と余暇志向の高まりを背景に、スポーツレクリエーションに対するニーズの高まりに応え、施設の改修・整備に取り組んでいます。今後も町民が主体的・継続的にスポーツを楽しむ拠点となる、施設の機能強化と有効活用の促進に努めていきます。

七戸町のスポーツ

七戸町総合運動公園には野球場、土・天然芝の多目的グラウンド、人工芝のテニスコートがそれぞれ備えられています。また、多目的な利用が可能な総合アリーナや剣道・柔道での使用を目的とした武道館・讃道館、その他にも屋内温水プール、屋内スポーツセンターなどがあります。冬期には町営スキー場もオープンし、四季を通じて、生涯スポーツ振興を支えています。

町の公共スポーツ施設

生涯にわたるスポーツライフの実現を目指し、スポーツに親しみ競技力を向上させる体制整備に努めます。

⑤ スポーツ振興の体制整備

① 生涯にわたるスポーツライフの実現
心身両面にわたる健康の維持増進と体力の向上を図るとともに、町民1人1人の普及・奨励に努めます。

② 競技者の育成を図る環境づくり
競技者の競技力の向上を図るとともに、トップレベルの競技者の育成に努めます。

③ 生涯にわたるスポーツライフの実現
心身両面にわたる健康の維持増進と体力の向上を図るとともに、町民1人1人の普及・奨励に努めます。

スポーツに対する取組

七戸町では、次の3つを柱として住民による生涯スポーツの振興を推進しています。



- 1) 外国人と触れ合いながら、コミュニケーション能力を養い、他国文化を学び体験することにより、異文化への関心・理解を高めることを目的に、国際交流推進事業を実施している。
- 2) こどもたちが安心して活動できる居場所づくりの促進を図るとともに、健全育成を目的として、放課後こども教室を実施している。
- 3) 七戸高校敷地内に開設した七戸公営柏葉塾。

創造性を育む教育環境の整備と
ふるさとの伝統文化が
息づくまちの実現へ、
全町民が生涯学習を楽しめるよう
サポートします。

豊かな心と文化を育むまちづくり
「潤いと彩りあふれる田園文化都市」の形成に向け、健康で、創造性に富み、新しい時代を主体的に切り拓く町民の育成を目指し、学び・自立・共生の力を育む学校教育、自己の啓発・向上と社会参加を実現する社会教育、芸術・文化の伝承・創造と文化財の活用・保存を関係機関・団体、地域と連携を図りながら推進します。

学校教育

次代を担う児童・生徒の安全を守り、健全な育成を図るため、教育環境の整備に努め、個性を尊重した指導、基礎・基本の着実な定着を目指す教育内容の充実に努めます。また、豊かな人間形成・優れた人材育成を図るため、コミュニティの協力を得な

から特色ある豊かな学校づくりを推進します。

七戸公営柏葉塾

生まれ育ったことを誇りに思い、住みたい・住み続けたいと思えるまちづくりを目指して、持続可能な地域づくりを担う人材育成を推進するため、公設民営塾を開設し「七戸高校の魅力化を核とした教育の充実による地域づくりプロジェクト」として事業を展開しています。

生徒一人ひとりの基礎的な学力向上を図りながら、キャリア教育や問題解決型学習、地域の魅力について学習するなど、多様な学びの場を創出し、シビックプライド醸成に取り組み、世界に羽ばたく人材、次世代の地域を担う若者の育成に努めます。

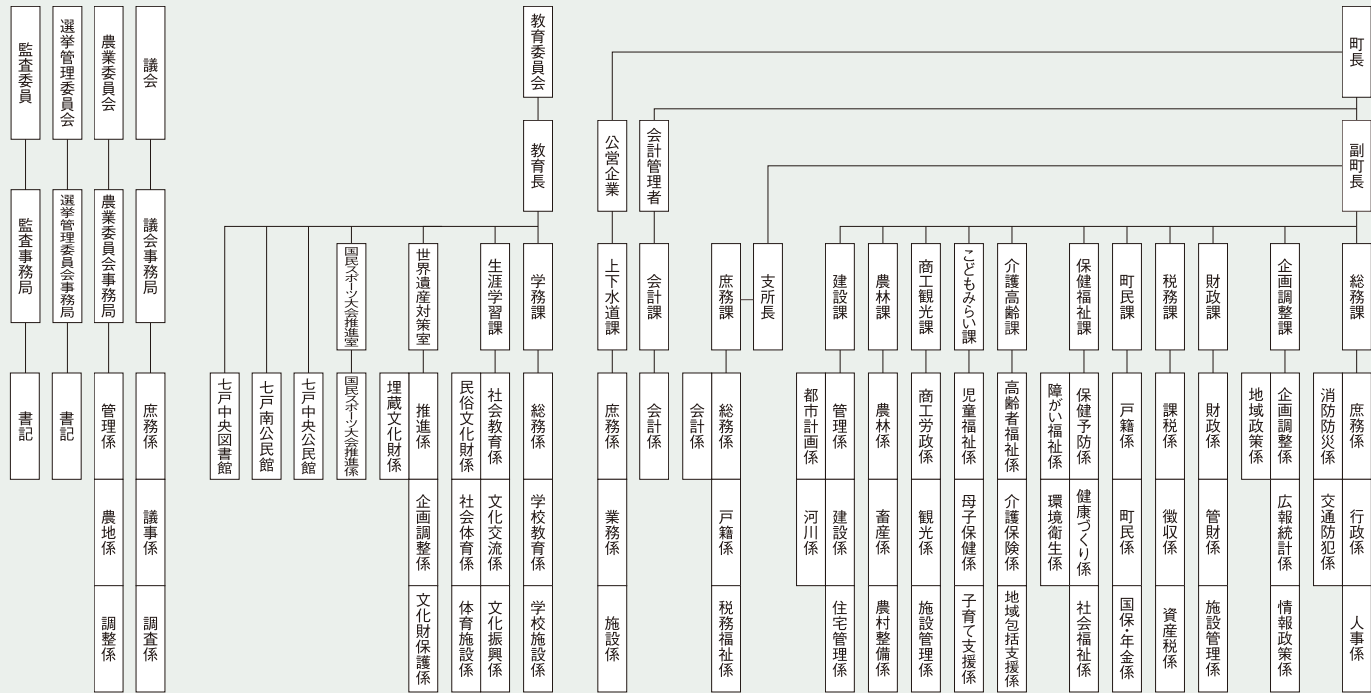
生涯学習

社会情勢が変化している中で、心の豊かさやこだわりをもった生活を求め、新たな知識や技術の習得などの学習意欲も多様化・高度化の傾向が強まっています。公民館活動をはじめ、生涯学習の一層の充実と学習機会の拡充や、情報の共有化を図りながら、豊かで住みよい地域社会を形成することができるよう、学びを生かしながらやりをつくり出す事業を推進します。



令和6年4月1日現在

七戸町行政組織図



歴代議会議員

代		旧七戸		旧天間林	代
初	玉山 堅治	昭和21年4月～22年4月	白石 房五郎	昭和22年4月～26年4月	初
2	岡村 清志	昭和22年5月～23年9月	中村 儀三郎	昭和26年4月～28年4月	2
3	山本 七五郎	昭和23年9月～26年4月	町屋 永次郎	昭和28年4月～30年4月	3
4	岡村 清志	昭和26年5月～27年11月	金沢 健太郎	昭和30年5月～38年4月	4
5	山本 正治	昭和27年11月～33年9月	榎林 勇次郎	昭和38年5月～42年4月	5
6			坪 重之助	昭和42年5月～43年12月	6
7	立石 健二	昭和33年10月～38年4月	榎林 勇次郎	昭和43年12月～46年4月	7
8			沢田 次郎	昭和46年5月～48年12月	8
9	山本 正治	昭和38年5月～42年4月	鳥谷部 喜代松	昭和49年1月～53年1月	9
10			附田 豊喜	昭和53年1月～57年1月	10
11	乙部 東吉	昭和42年5月～53年7月	天間 友一	昭和57年1月～61年1月	11
12			市ノ渡 石太郎	昭和61年1月～平成2年1月	12
13	浦田 市三郎	昭和53年7月～54年4月	市ノ渡 惣右エ門	平成2年1月～10年1月	13
14	倉岡 貫一	昭和54年5月～58年4月	二ツ森 圭吉	平成10年1月～14年1月	14
15	松本 精治	昭和58年5月～62年4月	福村 鐵男	平成14年1月～17年3月	15
16	福士 孝衛	昭和62年5月～平成2年3月			16
17	田中 実	平成2年3月～7年4月			17
18					
19	山谷 直正	平成7年5月～11年4月			
20	田島 政義	平成11年5月～15年4月			
21	松本 祐一	平成15年5月～17年3月			
合併後		初	中村 正彦	平成17年4月～19年3月	
		2	田中 正樹	平成19年5月～23年4月	
		3	白石 洋	平成23年5月～27年4月	
		4	田嶋 輝雄	平成27年5月～31年4月	
		5	瀬川 左一	令和元年5月～5年4月	
		6	附田 俊仁	令和5年5月～	

歴代首長

代		旧七戸		旧天間林	代
初	高橋 照光	明治22年～大正3年	井山 保太郎	明治22年～33年	初
2	野辺地 俊夫	大正4年～昭和2年	鈴木 武八	明治33年～38年	2
3	藤嶋 舊	昭和2年～6年	小又 彦三郎	明治38年～42年	3
4	戸館 康一郎	昭和6年～14年	星 松太郎	明治42年～大正2年	4
5	小原 平右エ門	昭和14年～21年	漆戸 潔	大正2年～6年	5
6	盛田 文造	昭和22年～25年	福士 宮治	大正6年～10年	6
7	工藤 正六	昭和25年～29年	千葉 喜代美	大正10年～昭和4年	7
8	中野 吉十郎	昭和29年～53年	沢田 清見	昭和4年～12年	8
9	濱中 博	昭和53年～平成2年	木村 吉雄	昭和12年～16年	9
10	福士 孝衛	平成2年～17年	向中野 則光	昭和17年～18年	10
合併後		初	花松 新五郎	昭和18年～21年	11
		2	沢田 喜代太	昭和22年～30年	12
			田嶋 松次郎	昭和30年～38年	13
			工藤 敬一	昭和38年～58年	14
			高田 藤夫	昭和58年～平成11年	15
			天間 一博	平成11年～14年	16
			小又 勉	平成14年～17年	17
		初	福士 孝衛	平成17年～21年	
		2	小又 勉	平成21年～	

現町議会議員

職名	氏名	常任委員会	正副委員長
議長	附田 俊仁	建設産業常任委員会	
副議長	岡村 茂雄	総務企画常任委員会	
議員	田島 政義	建設産業常任委員会	
”	三上 正二	総務企画常任委員会	委員長
”	田嶋 輝雄	総務企画常任委員会	
”	瀬川 左一	建設産業常任委員会	
”	佐々木 寿夫	総務企画常任委員会	
”	町 清悦	総務企画常任委員会	
”	工藤 章	建設産業常任委員会	委員長
”	澤田 公勇	文教厚生常任委員会	
”	小坂 義貞	総務企画常任委員会	副委員長
”	二ツ森 英樹	文教厚生常任委員会	委員長
”	向中野 幸八	文教厚生常任委員会	
”	山本 泰二	文教厚生常任委員会	副委員長
”	中野 正章	建設産業常任委員会	副委員長
”	藤井 夏子	文教厚生常任委員会	



行政と議会

この町に生まれて良かった。
みんながそう思える町を
みんなで力を合わせてつくろう。

町民の声を反映する協働のまちづくりの推進

地方分権が叫ばれ、政策の裁量権が基礎自治体（市町村）に移行されたことで、自治体は自分たちの未来を自分たちで決めることができるよう、自治能力の向上を図らなければなりません。新しいまちづくりには、町民と町が協力しあうことが重要となります。「七戸町まちづくり基本条例」を規範とし、行政と町民が直接対話しながら、協働のまちづくりを推進していく必要があります。

また、自治の成熟と自治能力の向上を図るとともに、誰もが参加でき、地域に応じたコミュニティづくりが展開できるよう、地域住民組織の育成や活動支援を行い、町民に広く開かれ、参加できるまちづくりを目指します。これと合わせて、男女共同参画社会を実現するため、家庭、学校、職場での男女共同参画の意識の向上に関する啓発活動を推進し、女性の働きやすい職場づくりと男性の家事や育児への参加を支援する体制を整えます。

行財政改革の推進

新型コロナウイルス感染症をはじめとした感染症の拡大及び深刻な国際情勢や急速な円安の進行の影響により、経済の低迷や物価高騰が長期化し、町内においてもあらゆる産業や町民の日常生活に大きな影響がありました。また、人口減少に伴う税収減により、町の財政は年々厳しさを増していますが、行政サービスの低下を招かないよう、町民生活の安全と

安心を確保していかなければなりません。
そのため、効率的な行財政運営を確立するため、総合管理計画などに基づく公共施設の統合整理や整備を推進していきます。また、財政計画などに基づいて行財政の計画的、効率的な運営管理をすることにも、官民パートナーシップなど、新たな時代対応に即した行政組織・機構へ見直しを進め官民協働の確立を目指します。

持続可能な地域社会の形成

交通・情報・通信体系の著しい発展などによって、人々の活動領域が広域化し、生活観やライフスタイルが多様化しています。町では、デジタル技術を最大限活用しながら、社会課題解決や魅力向上の取組を図り、充実した心で、町民が輝き、地域全体が活気にあふれる、住んで良かったと思えるまちづくりに努めていきます。



七戸町三役

(左) 附田 道大 教育長 (中央) 小又 勉 町長 (右) 仁和 圭昭 副町長

| 資料編 |

Shichinohe Data File

数字でみる七戸町

七戸町の「今」を知り尽くす。

数字を通して七戸町を眺めてみると

きっとさまざまな「今」が見えてくるはずです。

地勢・気象

七戸町は、青森県東部に位置し、北と東に東北町、西は青森市、南は十和田市に接する内陸の町です。

十和田湖や三沢、下北へ通じる交通の拠点であると同時に、町のほぼ中央には東北新幹線七戸十和田駅があり、県南地方の交通、観光の要となっています。

地勢を見ると、西側一帯は広大な国有林野で、標高1000メートルを超える八甲田山系が連なり、山麓から東に延びる丘陵は高低差が少なく、広大な水田地帯を形成しています。

気象は一年を通じて変化が激しく、中でも6月、7月には霧雨を伴ったヤマセ（北東風）のため気温の低い状態が続き、夏は短く、12月から3月にかけては北西の強い季節風が吹き、曇天、降雪の日が多くなっています。

〔位置と面積〕

面積		広ぼう	
337.23km ²		東西 約31km	南北 約26km
東経		北緯	
東端	西端	南端	北端
141°16'29"	140°54'17"	40°37'49"	40°48'52"

〔土地利用〕（参考資料：固定資産概要調書）

年	田	畑	宅地	山林	原野	その他	計
令和4年	41.65	20.74	6.77	139.87	15.05	113.15	337.23

（単位：km²）

〔気象状況〕（参考資料：気象庁 十和田気象観測所）

年	気温			雨量		日照時間 （時間）	降雪		
	平均（℃）	最高（℃）	最低（℃）	年間降水量 （mm）	1日最大 （mm）		年間降雪量 （cm）	1日最大 （cm）	初雪
令和元年	10.5	34.2	-16.1	1000.5	45.5	1980.2	189	25	11月14日
令和2年	10.2	35.1	-20.1	1114.5	81.5	1698.0	233	27	11月8日
令和3年	10.4	34.5	-13.2	874.5	52.5	1824.4	215	24	11月23日
令和4年	10.8	33.6	-12.7	1291.0	165.5	1826.3	203	16	11月30日
令和5年	11.7	35.4	-12.7	1061.0	97.5	1870.1	247	16	11月11日



〔本片舎の位置〕

住所：青森県上北郡七戸町字森ノ上131-4

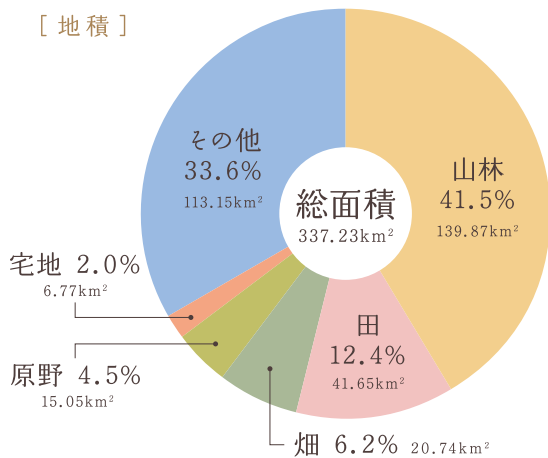
緯度：東経 141°09'43" 北緯 40°44'31"

〔七戸支所の位置〕

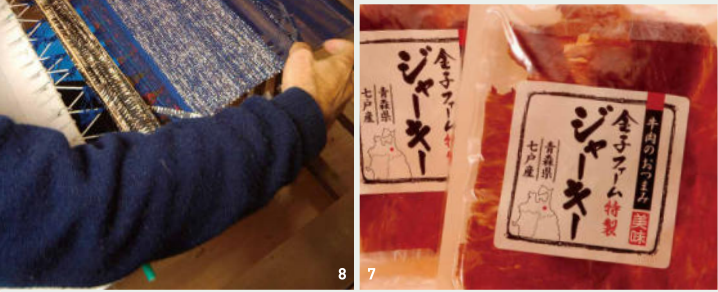
住所：青森県上北郡七戸町字七戸31-2

緯度：東経 141°09'03" 北緯 40°41'50"

〔地積〕



※グラフ内の数値は四捨五入の関係上、合計が一致しない場合があります。



1) 大自然ですくすく育った町自慢の特産農産物、にんにく・長いも・トマト。 2) 産地ならではの色と甘さが特徴の「りんごジュース」。 3) 町が日本一の生産量を誇る、驚異的な栄養価を持つ「アピオス」。 4) 雪の下で育ったにんにくを、温湿度調整だけで長時間熟成発酵させた「黒にんにく」。 5) 高温製法で手作りされる「すごろくあめ」。 6) ごはんのお供や炒め物、サラダなど様々な用途で使用できる「にんにくみそ」。 7) 肉の旨みがたっぷり入った「ビージャーキー」。 8) 古い布を生き返らせるための織物「南部裂織」。 9) 八甲田山系の高瀬川伏流水を使い、蔵元が丹精込めて腕をふるい、醸造した地酒「駒泉・作田」。

① 七戸町特産品（特有野菜等）の認証制度の推進
② 地域特産品の地域内消費拡大
③ 商材を活かした第六次産業化に向けた農商工連携の強化
④ 長期的・総合的な特産品開発や地域リーダーの育成
⑤ 観光交流センターを核とした、七戸十和田駅圏域各市町村特産品のPRと販売

〈プロジェクトテーマ〉

＊商材：農業界が異業種との協働の際の留意点は、「農産物」ではなく利益を生み出す「商材」という言葉を使うことが必要です。協働・連携の相手にとって農産物は農産物ではなく利益を生む「商材」です。

などを展開し、「売りがいい」「買いがい」のある「七戸ブランド」の確立を目指します。

「食」による七戸町のイメージアップを図るため、地域特産品を商材とした戦略的販売を展開し、「七戸ブランド」の確立を目指します。

地産地消文化の推進

クリーンな農産物の推進を図り、町の基幹産業である第一次産業の活性化の推進に努めるとともに、地域の生活文化に根ざした食文化（地産地消文化）を推進します。

「七戸ブランド」の確立を

地域特産品は観光のみならず地域振興にとって重要な要素です。農産物を商材とした加工品などを中心に異業種との連携を図りながら、相互販売、話題となる宣伝戦略

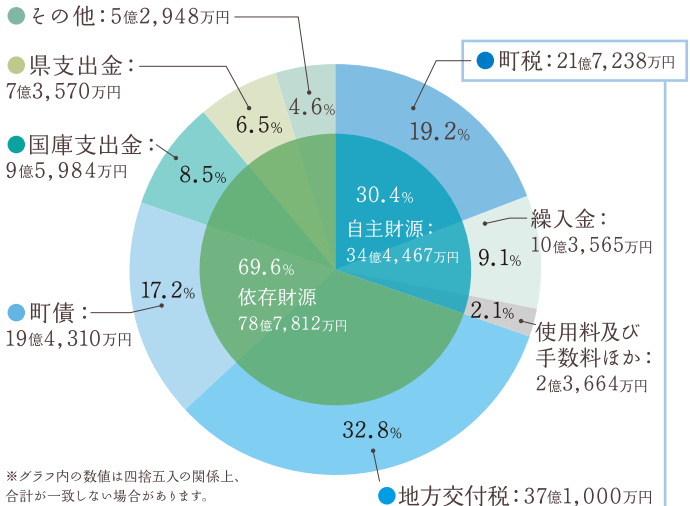


七戸ブランド

町の財政

[令和 6 年度一般会計予算]

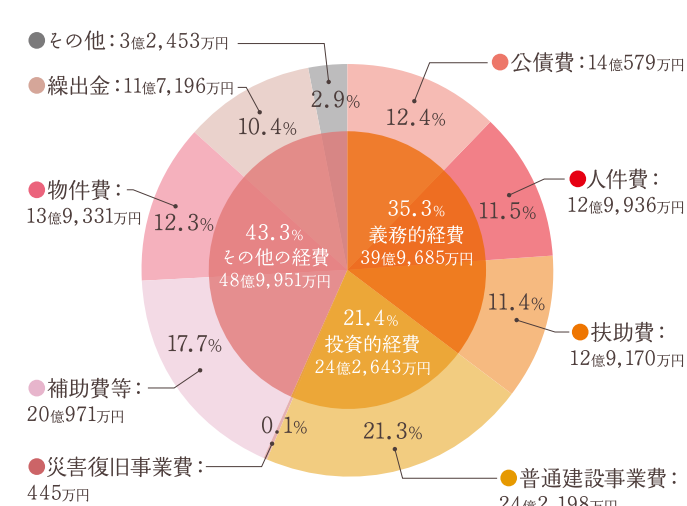
歳入：113億2,279万円



【歳入用語の説明】

- 町税
町民が町に納める税金
- 地方交付税
所得税など、国が徴収した税金の中から、地方公共団体の財政状況に応じて交付されるお金
- 町債
町が行う建設事業などの財源に充てるため、借り入れるお金
- 国庫支出金
町が行う特定の事業の財源として、国から町に交付されるお金
- 県支出金
町が行う特定の事業の財源として、県から町に交付されるお金

歳出：113億2,279万円



町税内訳



【歳出用語の説明】

- 公債費
町債を返済するために支払うお金
- 人件費
職員の給与や手当、議員や各種委員の報酬などを支払うお金
- 扶助費
児童、高齢者、障がい者、生活困窮者への支援に使うお金
- 普通建設事業費
道路や橋、公共施設などの建設事業に使うお金
- 災害復旧事業費
災害による被害について原形復旧に使うお金
- 補助費等
広域事業組合や各種団体に対する補助金などに使うお金
- 物件費
施設の光熱水費や各種委託料などに使うお金
- 繰入金
一般会計から特別会計へ支出するお金

町民1人あたりの負担額=15万1千円 1世帯あたりの負担額=31万7千円

令和 5 年10月 1 日現在 人口 14,377人／世帯数 6,863世帯（住民基本台帳月報集計より）

[令和 6 年度特別会計予算]

国民健康保険	17億4,938万円
後期高齢者医療	4億6,466万円
介護保険	27億2,609万円
介護サービス事業	542万円
七戸霊園事業	246万円
合計	49億4,801万円

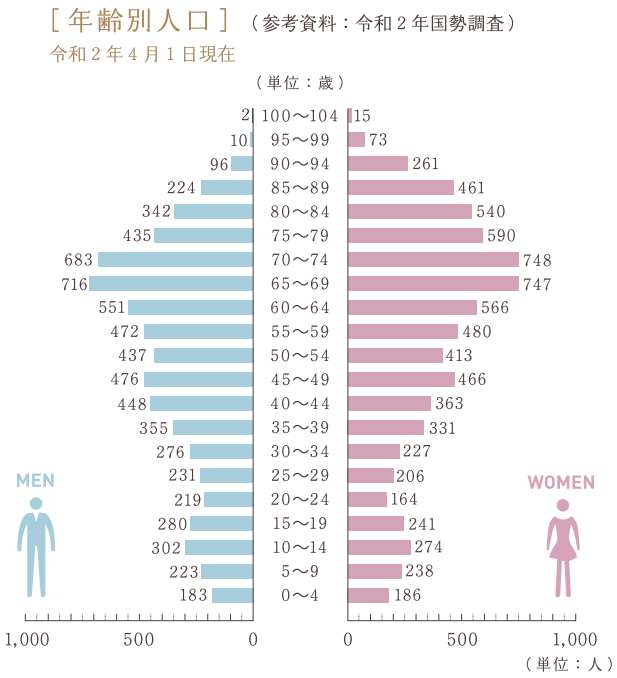
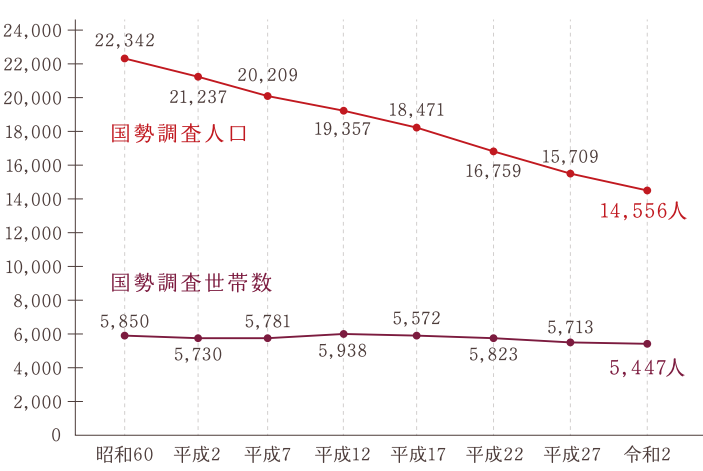
[令和 6 年度公営企業会計]

◆水道事業会計	
収益的收入	3億6,766万円
収益的支出	3億2,161万円
資本的收入	2億2,669万円
資本的支出	4億6,590万円

◆下水道事業会計	
収益的收入	3億1,816万円
収益的支出	4億3,912万円
資本的收入	3億9,126万円
資本的支出	3億9,927万円

人口

[国勢調査人口・世帯数] （参考資料：令和 2 年国勢調査）



[人口動態] （参考資料：住民基本台帳）

年	出生			死亡			増減		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
令和元年度	51	25	26	309	136	173	-258	-111	-147
令和 2 年度	64	28	36	303	150	153	-239	-122	-117
令和 3 年度	45	24	21	349	135	114	-304	-111	-93
令和 4 年度	52	28	24	304	148	156	-252	-120	-132
令和 5 年度	46	25	21	323	166	157	-277	-141	-136

年	転入			転出			増減		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
令和元年度	345	197	148	480	249	231	-135	-52	-83
令和 2 年度	343	170	173	384	190	194	-41	-20	-21
令和 3 年度	337	181	156	362	173	189	-25	8	-33
令和 4 年度	342	165	177	366	184	182	-24	-19	-5
令和 5 年度	363	207	156	394	209	185	-31	-2	-29

教育

[児童・生徒数] （参考資料：学校基本調査）

年	小学校							中学校				高校
	総数	1学年	2学年	3学年	4学年	5学年	6学年	総数	1学年	2学年	3学年	総数
令和元年度	659	90	99	111	108	124	127	301	95	101	105	360
令和 2 年度	617	88	90	99	110	105	125	312	115	96	101	331
令和 3 年度	572	82	87	90	98	110	105	319	109	116	94	300
令和 4 年度	567	91	84	88	91	101	112	317	93	108	116	299
令和 5 年度	543	85	91	86	88	92	101	312	109	95	108	285

Access to Shichinohe

七戸町へのアクセス



by Train

JRで

<東北新幹線>

東京駅→(3時間05分)→七戸十和田駅
仙台駅→(1時間30分)→七戸十和田駅
盛岡駅→(45分)→七戸十和田駅
八戸駅→(12分)→七戸十和田駅
新青森駅→(14分)→七戸十和田駅



by Car

東京方面より車で

<東北自動車道～八戸自動車道～上北自動車道経由>

(経由) 安代JCT→八戸自動車道→百石道路→第二みちのく有料道路→上北自動車道→七戸IC



by Bus

バスで

青森市から→(十和田市行70分)→役場前下車(本庁舎)→七戸案内所下車(七戸庁舎)
八戸市から→(十和田市行終点乗換、急行青森行80分)→七戸案内所下車(七戸庁舎)→役場前下車(本庁舎)



by Air

飛行機で

羽田空港→(1時間15分)→青森空港→(車で80分)→七戸町
羽田空港→(1時間20分)→三沢空港→(車で40分)→七戸町

令和6年度版 七戸町勢要覧

2024年5月発行

| 編集 | 七戸町企画調整課
| 制作 | アール・エー・ビー開発株式会社
| 発行 | 七戸町

〒039-2792 青森県上北郡七戸町字森ノ上131-4

<TEL>0176-68-2111 <WEB> www.town.shichinohe.lg.jp

*本誌掲載の写真・図版・記事等の無断転載、複製を禁じます。



主要施設一覧 市外局番 0176

町の機関

役場関係施設

- 七戸町役場本庁舎
〒039-2792 字森ノ上131-4 tel.68-2111 fax.68-2804
- 七戸町役場七戸庁舎
〒039-2592 字七戸31-2 tel.62-2111 fax.62-6245
- 七戸中央公民館
〒039-2827 字森ノ上210 tel.68-2920 fax.68-2176
- 七戸南公民館・七戸中央図書館
〒039-2524 字寺裏22 tel.62-2118 fax.62-3044
- 農村環境改善センター(柏葉館)
〒039-2525 字七戸22-8 tel.62-6661

学校関係施設

- 七戸小学校
〒039-2526 字上町野130 tel.62-2602 fax.62-6719
- 城南小学校
〒039-2516 字館野32-58 tel.62-2910 fax.62-2203
- 天間林小学校
〒039-2827 字森ノ上180-1 tel.68-2029 fax.68-2821
- 七戸中学校
〒039-2567 字鶴児平191 tel.62-3220 fax.62-3803
- 天間林中学校
〒039-2827 字森ノ上16-4 tel.58-7775 fax.58-7716
- 城南児童センター
〒039-2516 字館野32-2 tel.62-6656
- 城北児童センター
〒039-2526 字天王67-2 tel.62-6289
- 天間西児童センター
〒039-2827 字森ノ上180-7 tel.68-3055
- 天間林児童センター
〒039-2827 字森ノ上284-14 tel.68-3310

福祉施設

- 天間林保健センター
〒039-2827 字森ノ上359-5 tel.68-4631 fax.68-3536
- 七戸町地域包括支援センター
〒039-2827 字森ノ上359-5 tel.68-3500 fax.68-3536
- 七戸町子育て世代包括支援センター
〒039-2827 字森ノ上359-5 tel.58-7622
- 子ども家庭総合支援拠点
〒039-2827 字森ノ上359-5 tel.58-7622
- 七戸町総合福祉センター ゆうずらんど
〒039-2505 字立野頭139-1 tel.62-6790 fax.62-3628
- 天間林老人福祉センター
〒039-2827 字森ノ上16-4 tel.68-2249 fax.51-6671

スポーツ施設

- 総合運動公園
〒039-2567 字鶴児平1-108
- 総合アリーナ
〒039-2501 字荒熊内67-170 tel.62-2051 fax.62-2401
- 町営スキー場
〒039-2568 字左組106-5 tel.62-5612
- ふれあいセンター
〒039-2826 字中野16-1 tel.69-1111 fax.69-1112
- 屋内スポーツセンター
〒039-2826 字中野16-1 tel.69-1111 fax.69-1112
- 屋内温水プール
〒039-2827 字森ノ上16-4 tel.68-3363

観光施設

- 道の駅しちのへ 物産館
〒039-2501 字荒熊内67-94 tel.62-5777 fax.62-5779
- 道の駅しちのへ 道路・観光情報館
〒039-2501 字荒熊内67-997 tel.62-2137 fax.51-5377
- しちのへ産直七彩館
〒039-2501 字荒熊内67-94 tel.62-5777
- 鷹山宇一記念美術館
〒039-2501 字荒熊内67-94 tel.62-5858 fax.62-5860
- 七戸町観光交流センター
〒039-2501 字荒熊内67-49 tel.51-6100 fax.51-6101
- 東八甲田家族旅行村
〒039-2568 字左組142-1 tel.62-5671
- わんだむらんど
〒039-2500 字山館30-30 tel.62-9030
- ニツ森貝塚館
〒039-2752 字鉢森平181-26 tel.68-2612 fax.68-2645

国・県の機関

- 三八上北森林管理署 北坪川森林事務所
〒039-2827 字森ノ上207-11 tel.68-2149
- 三八上北森林管理署 七戸森林事務所
〒039-2512 字笹田69-5 tel.62-2945
- 独立行政法人家畜改良センター奥羽牧場
〒039-2567 字鶴児平1 tel.62-3281 fax.62-3283
- 独立行政法人種苗管理センター上北農場
〒039-2717 字柳平43-86 tel.68-4311 fax.68-4121
- 七戸警察署
〒039-2502 字大沢57-49 tel.62-3101 fax.62-6185
- 七戸警察署天間林駐在所
〒039-2827 字森ノ上132-15 tel.68-2110
- 上北教育事務所
〒039-2593 字蛇坂55-1 tel.62-2128 fax.62-2130
- 上北地方福祉事務所
〒039-2594 字蛇坂55-1 tel.62-2145 fax.62-2454
- 七戸児童相談所
〒039-2594 字蛇坂55-1 tel.60-8086 fax.60-8087
- 青森県営農大学校
〒039-2502 字大沢48-8 tel.62-3111 fax.62-3986
- 青森県立七戸高等学校
〒039-2516 字館野47-31 tel.62-4111 fax.62-4112
- 青森県立七戸養護学校
〒039-2571 字蛇坂57-31 tel.62-2331 fax.62-4535

広域の機関

- 上北地方教育・福祉事務組合
〒039-2571 字蛇坂55-8 tel.62-5154 fax.62-9587
- 中部上北教育研修センター
〒039-2571 字蛇坂55-8 tel.62-5156 fax.62-6940
- 中部上北広域事業組合
〒039-2571 字蛇坂55-8 tel.62-5151 fax.62-9587
- 公立七戸病院
〒039-2595 字影津内98-1 tel.62-2105 fax.62-6964
- 公立中央消防署
〒039-2501 字荒熊内159-4 tel.62-3141 fax.62-5601
- 公立中部上北斎場
〒039-2531 字太田103-1 tel.62-2555
- 公立もみのき学園
〒039-2571 字蛇坂45-2 tel.62-3161 fax.62-9990
- 中部上北学校給食センター
〒039-2744 字塚長根11-11 tel.68-2211 fax.68-4461
- 中部上北最終処分場
〒039-2752 字鉢森平185-4 tel.0175-63-4429 fax.0175-63-4436

その他の機関

- 明照保育園
〒039-2527 字町7-2 tel.62-3223
- 城南こども園
〒039-2518 字天神林19-2 tel.62-3095
- 城北こども園
〒039-2571 字蛇坂57-57 tel.62-2090
- 道ノ上こども園
〒039-2828 字森ヶ沢280-1 tel.68-2047
- 榎林こども園
〒039-2755 字榎林家ノ前40-1 tel.68-2042
- チビッコるーむ
〒039-2832 字道ノ上67-10 tel.68-2793
- 七戸郵便局
〒039-2599 字七戸205-3 tel.62-2700 fax.62-3698
- 天間林郵便局
〒039-2799 字道ノ上62-9 tel.68-3060 fax.68-4773
- 榎林郵便局
〒039-2755 字榎林家ノ前46-4 tel.68-3100 fax.68-4689
- 日本軽種馬協会七戸種馬場
〒039-2501 字荒熊内153 tel.62-2619 fax.62-6918
- 青森県家畜市場
〒039-2567 字鶴児平72-1 tel.60-1070 fax.60-1073
- 七戸町商工会
〒039-2525 字七戸48-3 tel.62-2521 fax.62-5229
- 七戸町天間林商工会
〒039-2815 字森ノ下48-3 tel.68-2189 fax.68-4444
- 七戸商店会協同組合
〒039-2525 字七戸123-20 tel.62-2075 fax.62-5101
- 十和田おいらせ農業協同組合七戸支店
〒039-2511 字笹田川久保8-3 tel.62-2195 fax.62-2198
- ゆうき青森農業協同組合天間林支店
〒039-2827 字森ノ上198 tel.68-3131 fax.68-2686
- 七戸畜産農業協同組合
〒039-2567 字鶴児平72-1 tel.62-2125 fax.62-2192
- 七戸町社会福祉協議会
〒039-2505 字立野頭139-1tel.62-6790 fax.62-3628
- 社団法人中部上北広域シルバー人材センター
〒039-2505 字森ノ上16-4 tel.58-0141 fax.58-0142
- 七戸職業能力開発校
〒039-2571 字蛇坂57-3 tel.62-2491
- 荒屋平土地改良区
〒039-2516 字館野32-19 tel.62-2277
- 榎林土地改良区
〒039-2755 字榎林家ノ前40 tel.68-3423
- 天間林土地改良区
〒039-2832 字道ノ上133-2 tel.68-2012
- 上北森林組合
〒039-2827 字森ノ上87-1 tel.69-1200